

海浜の自然環境を守る会ニュース

第67号 2021年6月15日

663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

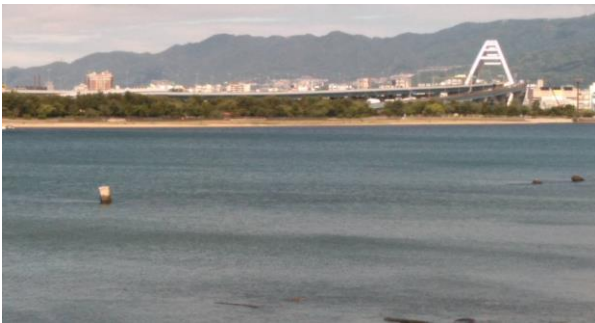
<http://www.npo-koshienhama.com/>

甲子園の浜にて想うこと

理事長 前田 文信

新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しないなか、三密（密閉・密集・密接）を避けて過ごせる絶好の場所があります。

満潮時も海面にそびえ立つ不沈の展望台跡



5月、ようやく爽やかな風を受けて、甲子園の浜のあずまやから大潮の日に刻々と干潮に向かう海面を眺め続ける。やがて潮が大きく引き始め、みるみるうちに海面から岩のようなものがあちこちで出現する。

これは昭和18年4月、鳴尾川の東側にあった川西航空機製造の“紫電改”のテスト飛行場にするため海軍が鳴尾競馬場を接收し、隣接の阪神パークを閉鎖、取り壊した残骸が戦後堤防の外に残され現れてくるのです。



初代の浜甲子園阪神パークは枝川河口跡を埋め立てたところを利用して、昭和3年の昭和天皇即位

を祝う「御大典記念国産振興阪神大博覧会」の開催（9/1～11/30）の後に施設のうち浴場の「大汐湯」と「演芸館」を譲り受け、昭和4年阪神電鉄が「甲子園娯楽場」としたのが始まりで、昭和7年に「浜甲子園阪神パーク」と改名し、動物園や電動乗り物遊具を拡充し昭和10年には「阪神水族館」を開館、斬新な展

示方法で人気を呼び、まさに総合レジャーランドになりました。当時を知る人によれば、とにかくすごかったらしい。

昭和25年に今の「ららぽーと甲子園」の地に「甲子園阪神パーク」として復活しますが、当時阪神電鉄と武庫郡鳴尾村が目指したスポーツと娯楽施設と調和した住宅づくりが甲子園地区一帯で繰り広げられたのでした。

平和を謳歌した時代がありましたがその期間は短かった。

戦後は米軍の基地の街と化した浜甲子園地区一帯でしたが昭和32年の米軍撤退後は浜甲子園団地として生まれ変わります。

段々現れてくる旧阪神パークの遺構を見ながら当時を想像してみると時間の経つのを忘れるし、戦争によって翻弄されたこの地域のことを考えると平和のありがたさを痛感します。

近年、浜の阪神パークの遺構が人気を呼び浴場の湯口のライオン像も有名になってきていますが、他にも観察しているといろんな構造物跡を推測する楽しみがあります。

コロナの時代に家族連れで磯あそびを楽しむ姿を見ていると、私たちができる範囲で清掃活動や生きもの調査を通じて甲子園浜の自

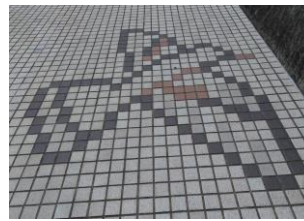
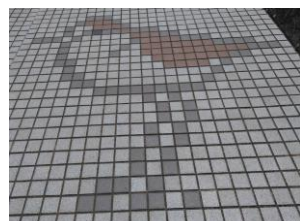


たてがみまでくっきり 4/12

然環境を後の世代のために守り続ける大切さを強く感じるのです。

さようなら 甲子園浜遊歩道ギャラリー

高潮対策で甲子園浜護岸の嵩上げ工事が6月1日始まりました。堤防の壁画や遊歩道のタイル画はもう目にすることはできません。



第18回通常総会

コロナウイルス感染症拡大による3回目の緊急事態宣言が出され、昨年同様書面表決をお願いいたしました。

第1号から第4号の議案が全て承認され、また今年度は役員改選はありませんので、理事長以下昨年度と同じ体制で引き続いて会の運営にあたっていきます。

理事長 前田文信

副理事長 菅野雅一、前野裕美子

理事 青石弘、岡田孝二、白川政昭、高松眞一
長村富美子、本井敏雄、山縣國宏

監事 小川哲男、高橋良三

コロナ感染の収束が見えないなか、甲子園浜の重要性が改めて認識されています。制約はありますが楽しんで、心に残る活動をしていきたいと思えます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

5月末での会員数は95名です。

活動報告

3月28日 海浜清掃は雨天中止

5月8、25日 阪神生物学会植生調査

5月9日 シギ・チドリ観察会は緊急事態宣言で中止

5月26、28日 大阪湾生き物一斉調査

6月6日 海浜清掃 123名



可燃ゴミ 330kg、不燃ゴミ 20kg

(ヤマサ環境エンジニアリング調べ)

活動予定

7月10日(土) 甲子園浜遺跡探検

7月18日(日) ブルーサンタになって甲子園浜清掃

7月22日(木) 生活クラブ生活協同組合主催「甲子園浜を知ろう！生き物観察&クリーンアップ大作戦」